

サントリー芸術財団

サントリーサマーフェスティバル2016

ザ・プロデューサー・シリーズ

© Akitoshi Higashi



佐藤紀雄 Norio Sato

1971年、東京国際ギターコンクール優勝。97年、アンサンブル・ノマドを結成し、音楽監督を務める。ギター演奏と指揮活動を広範に行う。ギター演奏においては、武満徹などの多くの作品を初演し、指揮者として内外の作品を初演している。京都音楽賞（実践部門賞）、中島健蔵音楽賞、第2回佐治敏三賞を受賞。



© Eric MANAS

板倉康明

Yasuaki Itakura

東京芸術大学卒業。フランス政府給費留学生として渡仏、パリ国立高等音楽院を卒業。クラリネット奏者として活躍。1996年、第3回神奈川芸術フェスティバルで西村朗作品で指揮デビュー、その後国内外の演奏団体と活発な指揮活動を行っている。2001年より東京シンフォニエッタ音楽監督。現在、国立音楽大学客員教授。

音楽の最前線を聴くサントリー芸術財団の「サントリーサマーフェスティバル2016」が8月22日から30日まで、サントリーホールで開催される。今回の「ザ・プロデューサー・シリーズ」は、アンサンブル・ノマドの佐藤紀雄と東京シンフォニエッタの板倉康明という2人の音楽監督が手がける。それぞれの企画の狙いを聞いた。

「佐藤紀雄がひらく」

武満徹のギター作品「海へ」を初演するなど、佐藤と武満のつきあいは長い。

「1970年代、映画音楽の録音を何度もしました。当時、指揮を見て、譜面を読んで弾けるギター奏者が少なかったのです。武満さんが企画したミュージック・トゥーデイや音楽監督をしていた八ヶ岳高原音楽祭にも呼ばれました。『海へ』はミュージック・トゥーデイで初演しましたが、難しくて体が震えました。海外公演にも一緒によく行きました。フレンドリーで率直でオープンな人でした」

大ホールでの演奏会には武満の「群島S・21人の奏者のための」が入っている。オリバー・ナッセン指揮のロンドン・シンフォニエッタで初演された作品だが、編成のこともありなかなか演奏されない。ステージに3つのアンサンブル、会場に2つのアンサンブルが、まるで5つの島のように配置される。「島同士のアンサンブルが呼び交わすのです。その美しさ、複雑な絡み合

いはCDでは分かりません。生で初めて分かるのです」

ニュージブランドのジャック・ボデイ「死と願望の歌とダンス」は、同国出身の歌手がマオリの伝統的なメロディ、中国人のカウンター・テナーはカルメンのアリア、波多野睦美はフラメンコをベースにした歌、そして森山開次のダンスが入る。マイケル・トッキーの作品は「音楽のポップアート」。こうした多国籍で多様な「今の時代の西洋音楽」のプログラムが並んでいる。

「西洋音楽は芸術の表現手段として便利なものです。ですから世界で作品が生まれます。今度は何を表現するかが問題なのです」と話した。

「板倉康明がひらく」

パリと日本を本拠に指揮者・クラリネット奏者として活躍する板倉康明は、「耳の愉しみ」と題した2つのコンサート企画、指揮する。

「いま、欧米では、現代音楽とクラシック作品を演奏会で一緒に演奏して、現代音楽と聴衆の乖離をなくそうとしています。主宰している東京シンフォニエッタでは、その考えに基づいて、レパートリーの隔てなく演奏する人たちとクラシックと現代音楽の素晴らしい演奏を聴衆の方々に届けることを目的としています」

「スバラシイ・演奏」と題された室内

楽「ウツクシイ・音楽」と題されたオーケストラの2夜の演奏会が企画されている。またパリ音楽院の院長を務めるマントヴァーニに作品を委嘱、世界初演される。

「共通するのは、作曲家が聴衆に向きあって作曲した、特に現代音楽というレッテルを貼らなくても、いい音楽で素晴らしい演奏、美しい音楽があるということです。ドビュッシーに『聴くだけで十分だ』という言葉があります。現代曲は聴く前に勉強が必要だというイメージがありますが、そうではなく、演奏にただ耳を開いて聴いていただければ楽しめる音楽をプログラミングしました。料理でも素材の選定や調理法など本当に細かい作業を綿密にやって、食べる方は『美味しい』だけでいいわけです。さらに、現代音楽の専門家でない、神尾真由子さんがリゲティを、小菅優さんがリンドベルイを演奏します。2人とも普通のレパートリーで自分の音を持っています、演奏に説得力がある。そこから音楽が広がり、全く違う作品になると期待しています」

公演情報

ザ・プロデューサー・シリーズ

佐藤紀雄がひらく 単独者たちの王国

めぐりあう声 8月22日(月)

サントリーホールブルーローズ

エベルト・バスケス:デジャヴ/デ・プレ

ジャック・ボティ:死と願望の歌とダンス

佐藤紀雄(指揮)、甲斐史子(ヴィオラ)

メレ・ポイントン、波多野睦美(メゾ・ソ

プラノ)、シャオ・マ(カウOUNTER・テナー)

森山開次(ダンス)

アンサンブル・ノマド

めぐりあう響き 8月27日(土)

サントリーホール大ホール

クロード・ヴィヴィエ:ジバング

武満徹:群島S

マイケル・トッキー:アジャスタブル・レンチ

リュック・フェラーリ:ソシエテII

佐藤紀雄(指揮)、中川賢一(ピアノ)

吉原すみれ、加藤訓子、宮本典子(打楽

器)、アンサンブル・ノマド

板倉康明がひらく 耳の愉しみ

スバラシイ・演奏 8月25日(木)

サントリーホールブルーローズ

ビエール・ブーレーズ:デリーヴ1

オリヴィエ・メシアン:7つの俳諧

ベネト・カサブランカス:6つの解釈—セ

ース・ノーテボームのテキストによせて=日

本初演

ジェルジ・リゲティ:ヴァイオリン協奏曲

神尾真由子(ヴァイオリン=リゲティ作品)

藤原亜美(ピアノ=メシアン作品)

板倉康明(指揮)

東京シンフォニエッタ

ウツクシイ・音楽 8月29日(月)

サントリーホール大ホール

ブルーノ・マントヴァーニ:衝突

=世界初演、サントリー芸術財団委嘱

ゲオルク・ハース:ダーク・ドリームス

=日本初演

マグヌス・リンドベルイ:ピアノ協奏曲第2番

ドビュッシー:海

小菅優(ピアノ=リンドベルイ作品)

板倉康明(指揮)

東京都交響楽団

●問い合わせ:東京コンサート

☎03-3200-9755

<http://suntory.jp/summer/>